

旧レッドリストカテゴリー		
1991	2000	2007
—	—	VU

ジャアナヒラタゴミムシ

Jujiroa ana (S. Uéno, 1955)

複眼の退化縮小した、洞窟や地下浅層に生息する地下性の種。静岡県西部および愛知県東部地域の固有種。タイプ産地の蛇穴では近年の生息確認がなされていない。乾燥化や乱獲による影響が脅威となっている。タイプ産地は遺跡の存在により、天然記念物指定がなされているが、洞窟生物に對しての保全対策はなされていない。

Jujiroa ana is a subterranean species with degenerated compound eyes. It inhabits caves or the upper hypogean zone. It is endemic to the eastern part of Aichi Prefecture and western part of Shizuoka Prefecture. It has not been found in its type locality, Ja-ana, in recent years. Over collecting and desiccation of the environment have become a threat to its inhabiting. Although the type locality is designated as a natural monument because of the presence of ruins, conservation measures for the cave-dwelling animals that live there have not been implemented.

基礎情報

■形態 体長12.5mm程度、体のキチン化が弱く褐色で、複眼は退化縮小している。体型は細く、両側はほぼ平行、脚はやや短く頑強。オスの跗節下面の吸着毛を欠く。

■分布域 静岡県西部および愛知県東部地域の固有種。

■生息環境 地下浅層や洞窟を生息場所とする地中性の種。まれに森林の林床で確認されることもある。

■生活史 詳細は不明であるが、肉食性で他の小動物を捕食すると考えられる。

現在の生息状況

■分布域の現況 地下性の種であるため、分布の詳細を把握することは困難で、分布域の衰亡について検証できていない。

■生息地の現況 和名の由来でもあるタイプ産地の蛇穴（じゃあな）では近年生息の確認がなされていない。隣接する洞窟においても生息の

可能性が高いが調査はなされていない。

存続を脅かす要因

洞窟および周辺環境の乾燥化による影響(18)や、採集者による過剰な採集、トラップの放置(41)が脅威となっている。

保護対策の現状

タイプ産地の蛇穴は縄文前期の遺跡があるという理由から国指定の天然記念物に指定されているため、開発の可能性はないものの、入洞の規制もなく、とくに洞窟生物への保全対策は行われていない。

特記事項

最初は新属新種の*Ja ana*として記載された。この学名は発見地の蛇穴に由来する。現在*Ja*は亜属として取り扱われている。

参考文献

Uéno, S., 1955. New cave-dwelling anchomendids of Japan. Opusc. Ent., 20: 56-64.

執筆者：岸本年郎（静岡県ふじのくに地球環境史ミュージアム
整備課）